

平成30年度 山形県病院事業会計決算の概要

令和元年7月
病院事業局

1 決算の概況

- 平成30年度の病院事業会計決算は、総収益が382億600万円、総費用が386億9,400万円となり、4億8,800万円の赤字となった。
- 総収益は382億600万円となり、前年度から10億3,500万円減少した。
 - ・ 医業収益…外来収益は増加したが、入院収益等の減少により1億7,600万円の減少
 - ・ 特別利益…退職給付引当金取崩益等の減少により8億6,400万円の減少
- 総費用は386億9,400万円となり、前年度から3億8,700万円増加した。
 - ・ 医業費用……給与費、経費、資産減耗費の増加により4億6,200万円の増加
- 実質収支（資金収支）は、資金不足の拡大を防ぐため一般会計から8億円の長期借入を受けたこと等で、前年度から8億7,800万円改善したものの、7億3,400万円の赤字となった。

(単位：百万円)

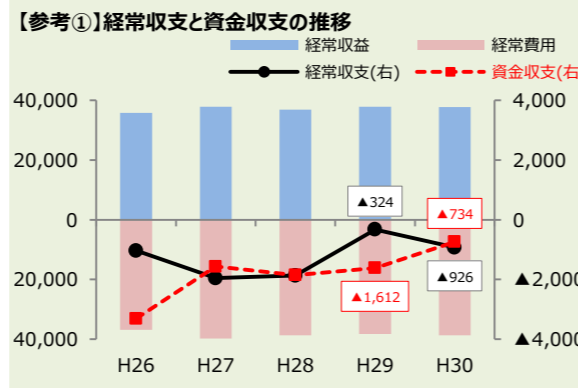
	30年度	29年度	対前年
総収益 A	38,206	39,241	▲1,035
経常収益 B	37,711	37,882	▲171
医業収益 C	31,226	31,402	▲176
医業外収益	6,485	6,480	5
特別利益 D	495	1,359	▲864
総費用 E	38,694	38,307	387
経常費用 F	38,637	38,206	431
医業費用 G	37,033	36,571	462
医業外費用	1,604	1,635	▲31
特別損失 H	57	101	▲44
医業収支 C-G	▲5,807	▲5,169	▲638
経常収支 B-F	▲926	▲324	▲602
特別損益 D-H	438	1,258	▲820
総収支 A-E	▲488	934	▲1,422

主な増減の要因

入院収益▲419、外来収益+304

退職給付引当金取崩益▲835

給与費+307、経費+155、減価償却費▲95、資産減耗費+159
企業債利息▲27
過年度損益修正損▲44



経常収支と資金収支について

病院事業会計では発生主義を採用していることから、損益計算書上の経常収益と経常費用の差引である経常収支の額と、実際の現金の差引である資金収支の額は一致しません。平成30年度は、退職給付引当金に引き当てる給与費（退職給付費）が増加したこと等により、経常収支は6億200万円の減少となりましたが、実際の現金の差引である資金収支では、一般会計からの長期借入金等により8億7,800万円の改善となっています。

2 収益の状況

(1) 入院

- ・ 入院収益は、診療単価は上昇したものの患者延数の減少により、全体で4億1,900万円減少した。
- ・ 患者延数は、こころの医療センターを除く3病院で減少し、全体で18,146人減少した。
- ・ 診療単価は、全病院で増加し、全体で1,240円増加した。

	入院収益 (百万円)		患者延数 (人)		新患者数 (人)		平均在院日数 (日)		診療単価 (円)	
	対前年	対前年	対前年	対前年	対前年	対前年	対前年	対前年	対前年	
中央	▲246	184,719	▲11,163	15,470	▲334	10.9	▲0.5	72,030	2,851	
新庄	▲77	111,219	▲4,102	6,692	▲85	15.6	▲0.4	44,275	908	
河北	▲176	45,180	▲4,922	2,417	▲266	17.7	0.1	39,108	326	
こころ	80	72,026	2,041	609	95	117.4	▲18.6	23,690	457	
全体	▲419	413,144	▲18,146	25,188	▲590	15.4	▲0.3	52,530	1,240	

(2) 外来

- ・ 外来収益は、患者延数は減少したものの診療単価の上昇により、全体で3億400万円増加した。
- ・ 患者延数は、こころの医療センターを除く3病院で減少し、全体で1,527人減少した。
- ・ 診療単価は、こころの医療センターを除く3病院で増加し、全体で553円増加した。

	外来収益 (百万円)		患者延数 (人)		一日平均患者数 (人)		診療単価 (円)	
	対前年	対前年	対前年	対前年	対前年	対前年	対前年	
中央	140	266,861	▲1,315	1,073	▲6	18,982	620	
新庄	130	185,443	▲926	757	▲4	11,438	757	
河北	7	103,869	▲2,445	424	▲10	10,828	308	
こころ	27	33,782	3,159	138	13	9,064	▲50	
全体	304	589,955	▲1,527	2,392	▲7	14,607	553	



3 費用の状況

- ・ 給与費は、職員数の減少等により給料・手当等が1億5,400万円減少した一方、退職給付費について、前年度一般会計負担のルール変更に伴いゼロであった退職給付引当金への繰入を4億900万円計上し、退職給付費が4億2,600万円増加したこと等により、全体で3億700万円増加した。
- ・ 材料費は、抗がん剤等の高額な医薬品の使用増により薬品費が1億2,500万円増加した一方、手術件数の減少等により診療材料費1億2,400万円減少し、また、河北病院で給食業務を外部委託化したこと給食材料費が減少したこと等により、全体で4,700万円減少した。
- ・ 経費は、重油価格の上昇に伴う燃料費と光熱水費の増加や、河北病院の給食業務外部委託化等により、全体で1億5,500万円増加した。
- ・ 資産減耗費は、電子カルテシステム等の除却に伴い、全体で1億5,900万円増加した。

(単位：百万円)

	30年度	29年度	対前年
医業費用	37,033	36,571	462
給与費	20,849	20,542	307
材料費	8,093	8,140	▲47
経費	5,517	5,362	155
減価償却費	2,061	2,156	▲95
資産減耗費	250	91	159
研究研修費	263	280	▲17
医業外費用	1,604	1,635	▲31
特別損失	57	101	▲44
合計	38,694	38,307	387

主な増減の要因

職員減等▲154、退職給付費+426
薬品費+125、診療材料費▲124、給食材料▲44
光熱水費+30、燃料費+58、委託料+107
建物や機械備品等の償却完了による減
電子カルテシステム等の除却による増

企業債利息▲27
過年度損益修正損▲44

4 資本的収支の状況

- 中央病院と河北病院で、電子カルテシステム等の総合医療情報システムを更新した。
- 中央病院では、マルチスライスCT装置を増設し、待ち時間の短縮による患者負担の軽減を図った。また、老朽化した冷房用の冷温水発生機を更新し、快適な療養環境の維持向上を図った。
- 新庄病院では、デジタル乳房X線撮影装置を更新し、撮影時間の短縮による患者負担の軽減を図った。また、新病院の改築整備に向けた基本設計に着手した。
- 河北病院では、手術時における適切な麻酔管理や患者への質の高い医療の提供が可能となるよう、老朽化した全身麻酔装置システムを更新した。
- 資金不足の拡大を防ぎ、財務の安全性を確保するため、長期借入金として一般会計から8億円を借り入れた。

(単位：百万円)

	30年度	29年度	対前年
資本的収入	6,330	4,210	2,120
企業債	3,934	2,539	1,395
出資金	106	101	5
他会計からの長期借入金	800	0	800
負担金	1,464	1,556	▲92
固定資産売却代金	9	0	9
その他資本的収入	17	14	3
資本的支出	6,654	5,439	1,215
建設改良費	3,661	2,592	1,069
企業債償還金	2,993	2,847	146
差し引き	▲324	▲1,229	905

■ 主な建設改良費

- 【中央】
総合医療情報システム更新等業務
マルチスライスCT装置
防災盤更新工事
冷温水発生機更新工事
- 【新庄】
改築整備 基本設計・実施設計業務委託
デジタル乳房X線撮影装置
総合医療情報システムネットワーク更新等業務
- 【河北】
総合医療情報システム更新等業務
全身麻酔装置システム

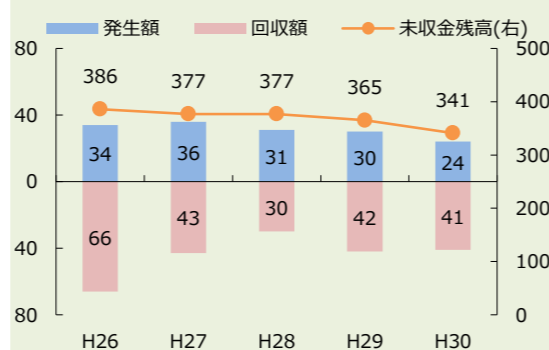
5 貸借対照表

(単位：百万円)

勘定科目	30年度	29年度	対前年
固定資産 計	34,599	33,439	1,160
現金預金	443	379	64
未収金	5,407	5,625	▲218
貸倒引当金	▲33	▲42	9
貯蔵品	116	134	▲18
その他流動資産	0	0	0
流動資産 計	5,933	6,096	▲163
資産 合計	40,532	39,535	997
企業債	27,962	26,703	1,259
リース債務	27	48	▲21
他会計借入金	800	0	800
退職給付引当金	12,131	12,725	▲594
固定負債 計	40,920	39,476	1,444
一時借入金	3,500	5,200	▲1,700
企業債	2,675	2,993	▲318
リース債務	22	22	0
賞与引当金	1,320	1,266	54
未払金等	5,778	3,523	2,255
流動負債 計	13,295	13,004	291
繰延収益 計	3,747	4,108	▲361
負債 合計	57,962	56,588	1,374
資本金 計	23,735	23,629	106
剰余金 計	▲41,165	▲40,682	▲483
資本 合計	▲17,430	▲17,053	▲377
負債資本 合計	40,532	39,535	997

(注) 端数処理の関係上、各科目の合計が合計値と一致しない場合があります。

【参考③】過年度個人医業未収金の状況



【参考④】資金不足比率について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条第1項の規定に基づき算定した資金不足比率については、次のとおりです。

資金不足比率 14.6% (平成30年度)

$$\text{【計算式】} \quad \text{資金不足比率} = \frac{\text{資金の不足額}}{\text{事業規模}}$$

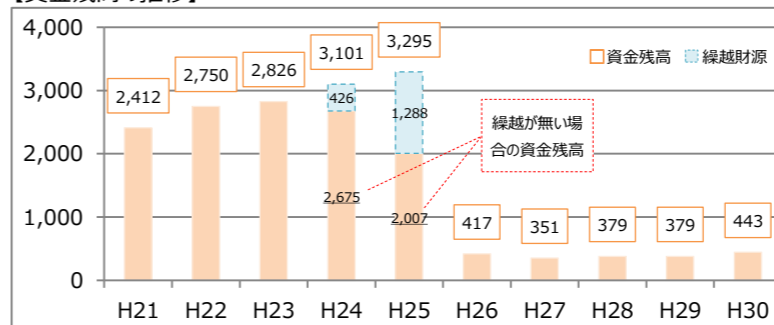
<資金の不足額>
(流動負債 - 企業債) - 流動資産 = 4,687百万円

<事業規模>
医業収益(※) = 32,000百万円

※医業収益には救急医療及び保健衛生行政に係る繰入金774百万円を含む

6 キャッシュフロー計算書

【資金残高の推移】



(単位：百万円)

	30年度	29年度
期首残高	379	379
業務活動によるCF	2,072	26
投資活動によるCF	▲2,049	▲918
財務活動によるCF	41	892
期末残高	443	379

※平成24年度の資金残高には翌年度に繰越した建設改良費約4.3億円の資金を含んでおり、平成25年度の資金残高には翌年度に繰越した建設改良費約13億円の資金を含んでいる。また、平成27年度より、年度末の資金残高が不足するため市中金融機関からの一時借入れを行っているほか、平成30年度末に長期借入金として一般会計から8億円を借入れしている。

【年度末一時借入金】 H27:2,000百万円、H28:4,000百万円、H29:5,200百万円、H30:3,500百万円

7 病院ごとの決算概要

(単位：百万円)

		中央		新庄		河北		こころ	
			対前年		対前年		対前年		対前年
総収益	A	22,956	▲342	8,445	▲64	3,703	▲358	3,070	▲74
経常収益	B	22,484	▲120	8,431	57	3,699	▲201	3,065	104
医業収益	C	18,924	▲150	7,311	36	2,966	▲171	2,025	109
医業外収益		3,560	30	1,120	21	733	▲30	1,040	▲5
特別利益	D	472	▲222	14	▲121	4	▲157	5	▲178
総費用	E	22,245	▲12	8,575	325	4,491	▲97	3,094	185
経常費用	F	22,209	▲23	8,564	326	4,486	▲98	3,089	240
医業費用	G	21,061	6	8,336	327	4,371	▲102	2,980	244
医業外費用		1,148	▲29	228	▲1	115	4	109	▲4
特別損失	H	36	11	11	▲1	5	1	5	▲55
医業収支	C-G	▲2,137	▲156	▲1,025	▲291	▲1,405	▲69	▲955	▲135
経常収支	B-F	275	▲97	▲133	▲269	▲787	▲103	▲24	▲136
特別損益	D-H	436	▲233	3	▲120	▲1	▲158	0	▲123
総収支	A-E	711	▲330	▲130	▲389	▲788	▲261	▲24	▲259

中央病院

- 経常収益は、入院・外来ともに診療単価は上昇した一方で患者延数が減少し、外来収益は増加したものの入院収益が大幅に減少したことにより全体で1億2,000万円の減少。(外来収益は過去最高)
- 経常費用は、重油価格の上昇等による燃料費と、電子カルテシステム等の除却に伴い資産減耗費が増加した一方、職員数の減少に伴う給与費が減少したこと等から、全体で2,300万円の減少。

新庄病院

- 経常収益は、入院・外来ともに診療単価は上昇した一方で患者延数が減少し、入院収益は減少したものの外来収益が大幅に増加し、全体で5,700万円の増加。(外来収益は過去最高)
- 経常費用は、診療材料費と経費が減少したものの、給与と改定や退職給付費の増による給与費と、高額医薬品の使用増により薬品費が増加したこと等により、全体で3億2,600万円の増加。

河北病院

- 経常収益は、入院・外来ともに診療単価は上昇した一方で医師の減等に伴い患者延数が大幅に減少し、外来収益は増加したものの入院収益が減少し、全体で2億100万円の減少。
- 経常費用は、給食業務の外部委託化により経費が増加した一方で給食材料費の減により材料費が減少し、また、職員数の減に伴う給与費が減少したこと等から、全体で9,800万円の減少。

こころの医療センター

- 経常収益は、診療単価の上昇と患者延数の増による入院収益の増と、医師の増に伴う診察料の増により患者延数が増加したことで外来収益が増加し、全体で1億7,100万円の増加(入院収益・外来収益ともに過去最高)。
- 経常費用は、後発医薬品への切り替え等で薬品費が減少した一方、給与と改定や退職給付費の増による給与費の増加により、全体で2億4,000万円の増加。